慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	外来語サ変動詞の意味記述
Sub Title	
Author	肖, 冰(Sho, Hyo)
Publisher	慶應義塾大学日本語・ 日本文化教育センター
Publication year	2015
Jtitle	日本語と日本語教育 No.43 (2015. 3) ,p.83- 83
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大学院文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20150300-0083

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』43：83（2015.3）

〔大学院文学研究科修士論文〕

外来語サ変動詞の意味記述

肖　　冰

現代日本語には和語や漢語が既に存在しているにもかかわらず、さらに類義の外来語が併存して使用される例が見られる。例えば、「テスト：試験」、「メリット：利点」、「サイン：署名」、「アップする：上がる、上げる」などがその例である。これらの外来語が国語辞書で意味記述をされるとき、日本語にある既存の類義語を使って解釈されることが多い。しかし、そのような記述のあり方が原因で、外来語と既存の類義語の使い分けに迷いが生じやすくなっているのではないかという疑問があった。そこで本論文では、外来語が既存の類義語との使い分けを目的とし、基本的な外来語サ変動詞から、多義的な「スタート（する）」、「マーク（する）」、「カバー（する）」を中心に意味分析を行った。

本論文は、全5章からなり、各章の概要は以下のようになっている。

第1章では、具体的な外来語サ変動詞について研究する文献から代表的なものを取り上げて概観してみることにした。そして、山田進と茂木俊伸の研究方法を取り入れ、意味と文法二つの面で研究を展開する。また、中道知子と石野博史の研究を参考にし、既存の類義語と比較しながら限定条件をつけることで、より詳細な意味記述を試みた。

第2章では、まず現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJと略）と『分類語彙表』、澤田多津子『基本外来語リスト』を比較し、「スタート」、「マーク」、「カバー」を研究対象に選定する過程と結果を述べた。

第3章から第5章では「スタート」、「マーク」、「カバー」を意味と品詞性の面から分析した。これらは多義語であるため、それぞれの語義に対応する和語や漢語の類義語と比較した。サ変動詞として使用する場合は、自動詞・他動詞の両面を持つ場合もあることも確認した。

結論として、「スタート（する）」は「新しい物事をし始める／が始まる」の意味として使われるとき、対象または主体が「制度・計画・活動など形がなく、かつ人為的なもの」という限定条件が付く傾向を見出すことができた。「発走する」の意味では「順位を争う競技で」という限定条件が付く傾向を見出すことができた。またこれまでの辞書には記述されてこなかった「車・エンジンなどの機械類が始動する」という語義を見出した。「マーク（する）」は「印をつける」の意味で「ある内容を目立たせるため、目当ての対象に」という傾向で使われることを見出すことができた。「目をつける、見張る」の意味では、「相手の行動を制限するため、特定の人物に」という限定条件があり、「注意を払う、関心を持つ」の意味では、「ある人・物・組織に」という限定条件があることにも気づいた。また、「よい記録を残す」の意味では、「競争・競技など、順位をつけることに対して」という限定条件が見られた。さらに、「カバー（する）」では、「覆う・被せる」の意味では「二者の関係の中で、一方がもう一方を」という含意があることを見出した。「補足する、補う」の意味では、「損失・ミス・欠点などについて」という、カバーする対象への限定条件が傾向として見られた。これは、「援助する」とも類義であるが、特に、「野球・サッカーなど特定のスポーツにおいて、自分のチームの守備活動に」という傾向も強かった。

このように、語義を記述する際に、付加情報として上で挙げたような限定条件のあることを積極的に示されれば、外国人学習者にとっては有益な情報になるということを述べた。